

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072800713		
法人名	社会福祉法人 敬老園		
事業所名	グループホームとよしな敬老園		
所在地	長野県安曇野市豊科4755-3		
自己評価作成日	平成21年8月20日	評価結果市町村受理日	平成22年1月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりなんびりした時間の中で、利用者様が個性を持ち発揮しその方の生活にあった支援ができていと思います。スタッフも、利用者本意ということをしっかり理解し、何が今一番大切な仕事か…ということを知って仕事ができていると思います。  
なるべく外に出る機会を持つことに力を入れています。その方の、体調・ニーズにそって外気浴、買い物などに出かけます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多様化する高齢者福祉のニーズを検証し利用者の視点で事業を展開する法人の理念の下、平成16年に当グループホームは設置された。大型店や公共施設の建ち並ぶ街中に位置しながらも、昭和初期を思わせる風情ある古民家を改修したホームは、我が家の延長線の暖かい生活が送れるようなやさしさを感じられる。課題であった地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念は、今回職員全員で作上げ、日々の実践のよりどころにされていた。また、看取りの指針を打ち出したことで、本人や家族の状況の変化に前向きに対応される姿勢が感じられた。職員は研修や同業者との交流を通じて、質の向上に取り組み、利用者一人ひとりが暮らしを楽しめるような支援に努められていた。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2072800713&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2072800713&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年10月14日		

### サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )				
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に理念を作り、いつも見える場所に掲げ、意識して仕事に取り組むようにしている。地域密着を踏まえた理念をつくり、実践につながればと思う。	地域密着型サービスとしてのの理念は、今回職員全体で取り組まれ、具体的でわかりやすい独自の理念を作り上げられた。利用者への尊敬の念や、心の和(輪)地域との輪(和)を大切にしたい理念が、サービスの道しるべとなるよう掲げられていた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小・中学校、傾聴ボランティアさんに来ていただき交流をはかっている。また、地区の老人会の行事にも参加したり、地区で開かれる音楽鑑賞会、お祭りに参加している。	月に一度の傾聴ボランティアの受け入れや、小・中学生がプランターの花を届けられるなど、利用者の様子を見ながらの交流が図られている旨を伺った。地区の老人会への参加など、徐々に開かれた事業所としての取り組みが行なわれていた。	「暮らし」は事業所の中だけで完結するのではなく、日常的な地域との相互関係で成り立っています。事業所での活動を回覧板に載せたり、近所の人遊びに来たりできるような間柄となるよう、近隣の一員となるような関わりができることを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の老人会にて認知症について、説明させていただいたことがある。	/	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。毎回、サービス状況を説明。外部評価を行った際には報告。毎回意見を伺いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、家族代表、市職員、地区長、職員当参加のもと、2ヶ月に一回開催されている。災害時の対応や地域との係わり、サービス評価の振り返りなど、地域の理解と支援を得るための具体的な課題について話し合いが行なわれていた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在、運営推進会議のみの連携が主である。	市の職員は運営推進会議の出席により、事業所の実情を把握されている。しかし、異動等により十分な連携体制とはいえない。	介護保険の保険者でもある市の担当者には、利用者の問題解決のため実態を知ってもらう必要があります。市職員の研修場所としての事業所の活用など、職員に利用者の暮らしぶりを知ってもらうことも大切であると思われます。

外部評価結果(グループホームとよしな敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にて学ぶ機会を持ち、正しい理解のもとケアに取り組んでいる。	職員は、研修等により身体拘束によって利用者に与える苦痛を理解し、鍵をかけずに安全に暮らす工夫をされていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会を持ち、それを現場で活かせるように業務中は注意を払いながら行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度など聞いたことはあるが説明できるほど分かっていない。研修会など積極的に参加し、必要なときには活用できるようにしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、不安な点がないよう利用者、ご家族が理解されるまでしっかりと説明を行っている。また、改定の際には事前にお手紙、また面会時にお話して理解をいただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来てくださった時、それとなく聞き、もしあればスタッフで周知して改善するように心がけている。また、意見箱を設置している。	担当制により利用者、家族の意見や思いが伝えやすい関係が構築されている。意見箱を設置するとともに、家族が面会に見えたときはゆっくりお茶を飲みながら意見や希望を聞くなど、意見要望を出しやすい雰囲気作りに努められていた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフ会議を設け、意見を聞いている。また、日常の業務中や、休憩時間にも話せるような環境作り、話しやすい間柄になるように気をつけている。	管理者は、ミーティングや個別面接で職員の意見を聴くだけでなく、日常的なかかわりの中で職員の声に耳を傾け、運営に活かしている様子が伺えた。	

外部評価結果(グループホームとよしな敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	働きやすく、働き甲斐のある環境作りに努めている。勤務状況や労働時間も、しっかり把握するようにしている。		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修の機会を設けている。また、スタッフ一人ひとりの現状を把握すること、またその方にあった声掛けなどを行い、向上していくように進めている。		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他事業所のケアマネージャーさんと電話連絡をしている。同事業所の他部署の方と勉強会、研修会を行うことで交流の場ともなっている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	新しい場所での不安など、常にスタッフが寄り添うことによって、利用者が安心できるよう注意を払っている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	事前面接にて利用者、ご家族が思っていることをしっかり傾聴し、不安を取り除けるよう努力している。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	話しやすい環境を整えることに心がけ、何が必要なのかを見極め、色々な助言ができるよう努めている。		

外部評価結果(グループホームとよしな敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軍歌を教わり一緒に歌ったり、漬物の漬け方、お饅頭の作り方、草取り等生活をともに支え合い、よりよい関係作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはよく話しをするようにしている。また月1回、利用者の様子を手紙で報告している。ご家族・スタッフ一緒に考え、支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行き物に行ったり、ドライブに行ったり、電話をしたりする機会を設けている。	本人を支えたり、本人が支えてきた人間関係を職員は把握し、墓参りやドライブなどに出かける支援がされていた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが話しの仲介をして一緒に楽しんだり、時にはフォローをして話を盛り上げたり、生活の中で助け合いができるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	道であったら挨拶をする、立ち話をする程度で継続的な関わりを必要とする状況に至っていない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、ご家族に意向を確認している。また、生活史を聞きその方にあった生活が継続できるように努めている。	職員は、ご家族から情報を得るとともに、利用者が言葉にしやすい思いは日々の行動や表情から汲み取るよう一人ひとり、その時々意向や思いの把握に努めながら支援されていた。	

外部評価結果(グループホームとよしな敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、ご家族に協力していただき情報収集を行い、生活史の把握をできる限り行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録に毎日の様子を記入し把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、ご家族の意向を確認し、介護計画原案をケアマネージャーと担当が話し合い作成。その上でスタッフ間で話し合いを持ち、利用者本位の介護計画を作成している。	担当者が本人の意向やご家族の希望を確認し、ケアマネージャーとともに立案した計画を、スタッフ間でアイデアを出し合いながら作成している。アセスメントとモニタリングを繰り返し、見直しがされていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外に連絡ノートも活用し、スタッフ全員が日々の気づきを把握、周知し介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の要望に応じて、医療機関への通院や買い物などの外出には、ご家族の代わりに付き添いを行うなど、柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スタッフと一緒に郵便局に行ったり、買い物に行ったりしている。最近地区の老人会へのお誘いがあり、地域の中に居ることを感じる機会を持つことが出来た。		

外部評価結果(グループホームとよしな敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族の意向を大切に、かかりつけ医との連携をはかっている。利用者の急変時には、協力医療機関に相談できる体制を整えている。	事業所の協力医療機関による緊急時対応の協力体制が整えられていた。また、本人が馴染みの医師による継続的な医療を受けられるような支援がされていた。	高齢で認知症を有する利用者は、早い段階での状態の変化に気付く事が重要とされます。急変する前に、医師や看護師に相談することで、一人ひとりの健康管理につなげることを望みます。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は入っておらず、職場に看護職がいない。医療連携病院の先生、看護師に指示を仰ぎ、日々の健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、直接または手紙、電話で情報交換を行う。また、早期退院に向け、スタッフが病院に行き情報交換し、いつでも対応できるように準備をすすめている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、入所時に説明している。終末期に関しては、利用者・ご家族の意向を尊重しながら医師とこまめに話し合いを持ち、方針を決めていきたい。	管理者はホームでのターミナルケアの重要性について理解し、見取りの指針が打ち出されている。利用者や家族とは、早い段階から話し合いを持ち、方針の統一を図られている様子が伺えた。	事業所として看取りの指針を作成し、安心と納得の最期を迎えられるような取り組みが見られました。今後は、他の利用者への影響やスタッフがどこまでできるか等、具体的な体制の構築を望みます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを普段から目を通して、定期的に勉強会等に参加し、緊急時には的確に動けるように準備している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を計画に沿って年2回実施。消防署との連絡は密に行っているが、地域の方への働きかけはまだ出来ていない。緊急時の連絡方法について、スタッフは把握している。	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行なっている。地域との連携については、運営推進会議の課題として今後も協力を呼びかけるとのことであった。	今後も継続して、災害時の具体的な対策を昼夜通して検討されるとともに、自治会や運営推進会議などで地域の協力体制を呼びかけていきたいと思われまます。

外部評価結果(グループホームとよしな敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉遣いや声掛けには細心の注意を払っている。利用者一人ひとりの方の能力に応じた言葉かけに努めている。	利用者の人格の尊重は、理念にも掲げられ、職員は誇りやプライバシーの確保について常に配慮しながら対応されている様子が伺えた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの方とゆっくり落ち着いて話せる環境を整え、しっかりと傾聴し、その方の意向を知ることができるような会話を心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が何をしたいのか、どのように過ごしたいのかを聞いてその中から一緒に選び、希望に添った行動ができるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好きな色の服をご家族に協力していただき用意している。着たい服を選んで着ていただく声掛けをしている。定期的に理容師さんに来ていただき、希望に沿えるような支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は会話を持ちながら楽しんで食べていただけような雰囲気作りに努めている。準備、片付けは皆で協力して行うことが出来ている。	食事の支援は、利用者や職員との関係作りなどの点から、暮らし全体の中でも重要な位置にある。準備や片付けを共に行い、利用者と職員が同じ食卓を囲み、歌声の響く食事風景であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの方のその日の体調や、毎回の食事量をしっかり把握できるよう努めている。水分量は毎回決まった量が摂取できるよう記録に残している。個々に合った形態で食事が提供できている。栄養士によるバランスのよい食事提供もできている。		

外部評価結果(グループホームとよしな敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の義歯洗浄や声掛けをし、個々に合った口腔ケアを支援している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方は定期的に声掛けをし、トイレ誘導したり、座位の保てる方はなるべくトイレに座っていただけるように支援している。	行きたい時にトイレに行けるよう、本人の生活リズムにそった支援と、使いやすいトイレの整備がされていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々体操を行ったり、栄養士による献立、毎日の水分チェック等しながら、個々の排便コントロールをしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者と相談しながらできる限り、希望に添うように努力しながら支援している。	入浴は利用者の希望を確認し、一人ひとりの気持ちや生活習慣に合わせて臨機応変な対応がされていた。冬は良眠できるよう、足湯などの支援が行なわれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握したり、利用者の眠れない不安を取り除けるよう話しを聞き、声掛けを行っている。巡視をして安心安楽な状態で休めるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、しっかりと理解した上での支援を行っている。特に変更時には細心の注意を払い、必要があればご家族や主治医へ相談している。		

外部評価結果(グループホームとよしな敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合わせて配膳や盛り付け、片付けなど協力していただき、それぞれの役割を率先してできるように気をつけている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	天気の良い日など希望をお聞きし、ドライブや買い物、散歩、外気浴などの支援に努めている。	本人の希望に応じてドライブや買い物、庭での外気浴などが行なわれている。また、本人の思いに添った墓参りなどの支援もされていた。	戸外で気持ちよく生き生きと過ごせることは、ストレスの発散、体調や体力の改善につながります。毎日、短時間でも戸外に出かける機会を作ることは、地域の人々の理解やなじみの関係にも結びつくことから、より一層の積極的な支援を望みます。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じて、出来ないところは支援するように努めている。買い物時には、一緒にレジに並び清算をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができるようになっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節ごとの花や木を飾ったり、中庭にも多くの木や花を植え、眺められるようにして、居心地のよい空間が広がっている。	古民家の明るすぎない空間が、安心感と居心地のよい場となり、居間のこたつで好きなきに横になるなど自由な暮らしぶりが伺えた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やホールなどを利用していただき、一人ひとりの希望にあった空間を作っている。		

外部評価結果(グループホームとよしな敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に依頼し、自宅で使用されていたものを持ってきていただき、居心地の良い空間を提供できるように努めている。	居室はプライバシーの保てるような個室であり、馴染みのものが持ち込まれ、それぞれの利用者が落ち着いて過ごせるよう工夫されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで安全を確保している。危険はないか、必要なものはあるかなどスタッフで話し合うようにしている。		